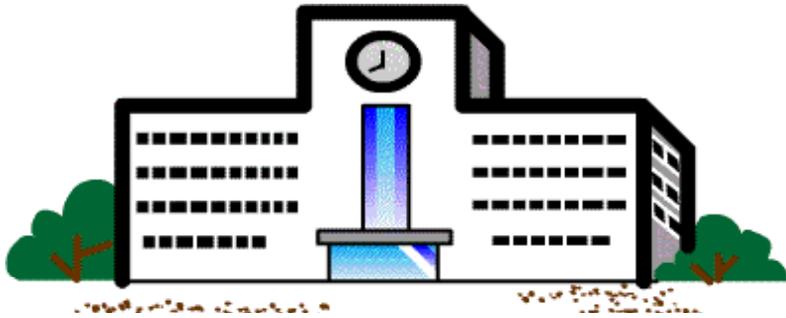


よく学ぶ よく遊ぶ 明るくあいさつ 黙って掃除

“子ども、保護者、地域、教職員、みんなが誇りに思い、楽しいと思える学校づくり”

〒801-0833 門司区清滝5-3-21 TEL 331-1708 FAX 331-1709 校長 三栗谷 進

全国学力・学習状況調査から



今年度も全国学力・学習状況調査が実施されました。その結果が学校へ送付されました。今回の学校通信では、調査結果の全体的な傾向と考察等についてお知らせします。なお、本調査により測定できる学力は、特定の一部分です。また、紙面等の関係で概況のお知らせになることをご了解下さい。新聞報道では数字をクローズアップしたり、全国の地域差を大きく取り上げたりしていましたが、数字による差異はかりに目がいくと、大局的な見方ができにくくなると思います。ここでは数字による比較は控えます。

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査対象 小学校は第6学年

3 調査内容

| 主として「知識」に関する問題 「国語A、算数A」 | 主として「活用」に関する問題 「国語B、算数B」 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など | <ul style="list-style-type: none"> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 様々な課題解決のための構想を立て、実践し評価、改善する力など |

| |
|---|
| 生活習慣や学習環境等の調査 生活習慣や学習環境、学校における教育条件の整備状況等に関する調査 |
|---|

4 結果と分析

【教科に関して】

- 北九州市の正答率は、「知識」「活用」に関する問題で、全国平均正答率を下回っています。本校は、全てで北九州市平均を上回っています。本校は、「国語B」以外は全国平均を若干下回っています。本校は、国語A、算数A、国語B、算数Bを合計すると、全国平均を上回っています。

【生活習慣、学習環境等に関する質問から】

- 全体を通して、全国の状況とほぼ同じでした。全国と比較して、±10%程度の項目についてお知らせします。

【プラス10%程度の項目】

- △学校に行くのが楽しい。
- △学校で友達と会うのは楽しい。
- △普段の授業でインターネットを使って、グループで調べる活動をよくしている。
- △普段の授業で、自分の考えを発表する機会がある。
- △普段の授業で、友達と話し合う活動をよく行っている。

【マイナス10%程度の項目】

- ▼難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する。
- ▼平日、7時まで起きる。

- ▼1日、4時間以上、ゲームをしている。
- ▼1ヶ月に1冊も本を読まない。
- ▼家の手伝いをする。
- ▼家の人は授業参観などの学校の行事に来る。
- ▼宿題を家でしている。
- ▼テストで間違えた問題の勉強をする。
- ▼地域の行事に参加する。
- ▼地域や社会をよくするために何をすべきか考える。
- ▼英語の学習。

全体のチャート図が添付されていました。全国と比較して、プラスになっていた項目は「教科の指導法」「言語活動」でした。逆にマイナスになっている項目は「生活習慣」と「学習習慣」「個に応じた指導」でした。

教科の知識・技能は、北九州市平均を上回っていましたが、全国平均は若干下回っていました。基礎的な力は身に付いています。しかし、まだまだ十分とは言えません。学校では、友達と話し合ったり、自分で調べたりしながら、自分の考えを発表しようとしています。今後も、授業で自分の考えを発表したり、友達と話し合ったりして、コミュニケーション能力を高めていく必要があると考えています。

マイナス部分は、生活習慣と学習習慣でした。子どもの生活で一番大切な部分です。(昨年度と同じ)

この調査結果だけで、子どもの学力や生活を語ることはできませんが、今後の改善のための資料にしたいと思います。また、現在の6年生のよさ(学校生活の充実、友達関係の充実、集団生活の中でリーダーシップの発揮など)を下級生に引き継ぎながら、門司海青小学校全体のよさにしていくことが大切だと考えています。

家庭では、今までのように一緒に食事を摂り、子どもと話し、家族団らんの時間を作ってください。また、生活習慣(起床・就寝時間、ゲームや携帯電話の使い方、家庭での学習時間の確保etc.)を見直し、改善できることから改善していきましょう。

【今後の方策】

- 以上のような本校の概況を受けて、学力向上に向けて以下の取組を継続して行います。
- 学習規律(学び方)の定着
《学ぶ意欲、学び方、自尊感情など》
 - 少人数指導の充実
《基礎・基本の定着、学ぶ楽しさ》
 - 朝自習の充実(全校一斉に国語、算数の問題に取り組む)
 - 道徳教育の充実
《思いやり、感謝、生命尊重などの気持ち》
 - 家庭学習の手引配布

毎年マスコミは、○○県は1位、△△県は最下位...など、点数や順位に注目が集まるような報道をしていると感じています。そのせいなのでしょうか、ある県では「下位校の校長名を公表」などの発言がありました。悔しい感情は理解できますが、それで教職員の意欲が高まったり、子どもの学力が向上したりするのでしょうか。

大切なことは、数字による結果に一喜一憂することなく、見直しをもって、学力向上の取組を着実に継続し、よりよい方向を探っていくことだと考えます。併せて、学校だけでなく家庭や地域を巻き込んだ取組にしていく必要があるとも考えます。

子どもの調査結果をもとに、私達大人も、自分自身を見つめ直したり、子どものことを考えたりすることが大切ではないでしょうか。子どもと共に伸びていく大人でありたいですね。

北九州市教育委員会からは、今回の結果を重く受け止め、今まで以上の取組の充実を図るように指示がきています。本校では、上記の方策を中心に、しっかりと先を見通しながら、少しでも子どもの学力向上につながるよう取り組んで参ります。皆様のご理解とご協力をお願いします。